

名古屋観光ビジネスのデザイン提案 第2回勉強会「なごやサーベイ」Cコース(常滑)報告

2015年9月5日 セントレア→常滑→INAXライブミュージアム

メンバー：安倍、井関、今川、金、関本

作成 関本 隆次

- ・名鉄電車にセントレア行きにもかかわらず英語のアナウンスがなく外国人が不安な様子だった。
- ・宅急便の便利さが外国人には知られてないかも
トイレに設置されている着替え台。これは便利な道具でヒントになるかも



公衆の面前で機内持ち込みと預入を分けているのかな？スーツケースを開けることに抵抗がある。問題解決できないか。両替するのに用紙に書かせるなんて国際空港の恥だ。名鉄の切符売場では外国人がどう買っているやら悩んでいた。日本人ですらわかりにくいからそりゃそうだな。どの列車に乗ればいいのか掲示板の前で案内すべきだ。



全くわくわくしない常滑駅前 駅前から散策エリアまでも全く雰囲気なし。間違った所を選択してしまったのかととても心配になる。観光案内所も雰囲気ゼロ まねき猫バスを走らすべきだ!



しかし散歩道に入ってやっと雰囲気がよくなる。こちらのカップルは上海からの観光客で女性は日本語が話せた。エリア内の案内も英語、中国語、韓国語があり問題なし



道から見えた巨大まねき猫に行ってみると、裏が平でがっかり。こういう記念撮影できるランドマークを中心部につくるべきだ。



昨年、鬼瓦でお世話になった佐藤さんが **Morrina** というお店を手伝っていた。このお店は古い家屋をリノベーションしたもので梁がむき出しで雰囲気があった。散策コースのトイレも申し分なし。



昼食はおしゃれなお店があったがあいにく英語のメニューは用意していない。写真があるからいいか。散策コースエリアから **INAX** まではまた全く雰囲気の無い道路となってしまう。



INAX ライブミュージアムの中はグローバルな観光案内があったが路線バスは 1 時間に 2 本しかなく、時刻表は当然日本語しかない。



■感じたこと

常滑には観光資源（事実）としては十分コンテンツがあることを確認。

ただし入口 つまり伝えること、導入部の雰囲気作りのプロデュースができていない。

散策コース内、INAX ライブミュージアムの拠点としては良い。

拠点がまばらということもあるが **Morrina** とお店の代表者 杉江寿文氏のような常滑をととても愛し、語れる人も散在していると推測できる。問題はプロデューサーなのだ それぞれの要素を融合し、地元住民の理解を得てトータルで計画する。そういう機能が足りないのではないか。

●第一番目 名鉄のセントレア線だけはしっかり英語、中国語、韓国語の社内アナンスをしてお客さんを安心させてあげるべき。案内ももともとわかりやすくすべき

●セントレア空港はサービスが良いことで定評があるが、日本ならではの宅配便の良さをもっとアピールすることができたならさらに良い。

●常滑駅から散策エリアまでがあまりにも雰囲気がない。巨大まねき猫は駅前広場に設置すべき。

●散策エリア内の散策は問題なしが公共交通機関を使って観光拠点と観光拠点をどう便利に時間ロスなく移動するかが大きな課題。知多バスの 1 時間 2 本でもよいから 時刻がもっとわかりやすく案内できないものだろうか それに合わせてお茶でも飲んで時間をあわせればよいのだから。

●エリア内に巨大まね猫を作ってシンボルにするべき。